

『メゾン刻の湯』

小野 美由紀／著 ポプラ社（2018年）

就職活動を乗り切ることが出来ず、内定のないまま大学を卒業することになったマヒコ。幼馴染の蝶子に誘われ、東京の下町にある銭湯「刻の湯」で手伝いをしながら暮らすことになった。その銭湯には事故で片足をなくした龍くんや誰にも言えない秘密をもつゴスピ、実質的に刻の湯を経営し、いつも中心にいながらも謎に包まれたアキラさんなど一癖も二癖もある住人が共同で生活している。銭湯のお湯は人を芯からほぐし、前を向いて進んでいく力を与えてくれた。



『太糸で編むマフラー・帽子・スヌード』

朝日新聞出版／編著

朝日新聞出版（2017年）



日増しに寒さが厳しくなる今日この頃。そろそろ防寒具を出してきたり、新しく買ったりしているのではないのでしょうか。今年は帽子やマフラーを自分で作ってみませんか？編み物は難しいと思っている人、昔挫折したことがある人にこの本を読んでチャレンジしてもらいたいです。この本では、できるだけ簡単に編み物ができるよう紹介がされています。編み方のお手本も大きく載っているので初めての人でもわかりやすくなっています。おしゃれな編み方も載っているので、編み物が得意な人も読んでみてください。

『おでん屋ふみ おいしい占いはじめました』

渡辺 淳子／著

KADOKAWA（2021年）

「おもしろくない」という理由で振られた千恵は、深夜におでん屋を始めたら「おもしろい女」になり元カレを見返せるのではと、おでん屋ふみを開店します。日中は普通のOLとして働き、開店時間は深夜0時から早朝5時まで。ところが、来る日も来る日もお客さんは全く来ず、心が折れかかっていたある日、今日で引退の占師がお店に立ち寄ります。占いは人生相談であるという彼女の言葉に心を動かされた千恵はおでん占いを始めることに。



『ぐつぐつ、お鍋 おいしい文藝』

阿川 佐和子／（他）著

河出書房新社（2014年）



料理があまり得意ではない筆者に、先輩記者が教えてくれたのが白菜と豚肩ロースの水炊きでした。しょうが醤油で食べるこのお鍋は、筆者の家の定番となりました。それから何年も経って、先輩記者の四十九日の席で、筆者はこのお鍋が代々記者の間で受け継がれてきたレシピだということを知ります。鍋には物理的なあたたかさの他に、もうひとつ立ちのぼるあたたかさがある一。

（『あたたかい鍋』増田 れいこ）

『あつあつを召し上がれ』

小川 糸／著 新潮社（2014年）

あなたの思い出の味は何ですか？

この本では、様々な人が料理とともに懐かしい人を思い出し、またさらに、料理を介して新たな思い出をつくっていきます。

父との思い出の味であり、恋人との新たな思い出となったぶたばら飯。厳しくも優しい母との思い出が詰まった煮干しのダシを引いたおみそ汁。夫婦の思い出の味、カリッと揚げたハートコロリット…。おいしそうな料理と、温かく時に切ない思い出の数々に、心までぽかぽかしてきます。



『あったかスイーツ とっておきの60レシピ』

福田 淳子／著 主婦の友社（2011年）

今年も冬がやってきました。毎日毎日と～っても寒くて凍えそうですね。こんな日は熱いお鍋でも食べて温かいお風呂に入るのが一番！でも、少しでも違っておうちであったかいおやつを食べてほっ、と一息つきませんか？本格的なアップルパイから、簡単なホットケーキまで、色々なレシピが載っています。お店のおかしとはちょっと違う、でもとてもおいしくてうれしい。そんなおかしを作りませんか？火や包丁を使い慣れていない人はおうちの人と一緒に作りましょうね。

